

令和3年度第1回神戸市市民福祉調査委員会計画策定・検証会議 議事要旨

- 日 時 令和3年11月9日（火）午後4時～午後5時15分
- 場 所 神戸市役所1号館14階 1141会議室・オンライン
- 議 題 “こうべ”の市民福祉総合計画2025の検証評価方法について
→事務局より資料2・3・4に基づいて説明
- 報 告 令和2年度神戸市ネットモニターアンケートの調査結果について
→事務局より資料5に基づいて説明

○主な意見

- ・市民福祉総合計画が様々な内容を含んでいるものであるが、今回計画をスリム化したことで体系がざっくりしており見えづらいと感じる。
- ・質的評価を重視しヒアリングを実施する方向性には賛成する。ただ、あくまで行政の報告ということを踏まえると、量的な側面を述べることも必要ではないか。
- ・本来総合計画は、他のそれぞれの部局が担当する計画へ考え方が反映するということが大きな前提であったのにも関わらず、これまで事業評価に様々な事業施策を並べてきたがために混乱が生じていた。総合計画をコンパクトにスリム化したことは、神戸の福祉の考え方・方向性を伝えるという意味であるため、ひょっとしたら今までの評価のあり方はいったん消してしまっ、何を今回取り入れるべきかを検討した方が良いかと思う。
- ・活動されている方や参加者に話を聞くと、来られなかった方、参加が難しかった方とのギャップ、分断につながる可能性を考慮しておく必要がある。ソーシャル・インクルージョンと逆の方向に進んでいけないような話の聞き方と問題の設定の仕方をしておく必要がある。
- ・困っている方を引き上げることができるようなアンケートができればいいと思う。アウトリーチによるヒアリングができればいいと思う。居場所等に来られない方の方に課題があったりするので、そうした方がしあわせになれるような施策を推進して欲しい。
- ・アンケート調査は回答者の属性に偏りがあり、実際の市民の年齢構成とは誤差があるため集計方法には気をつける必要がある。